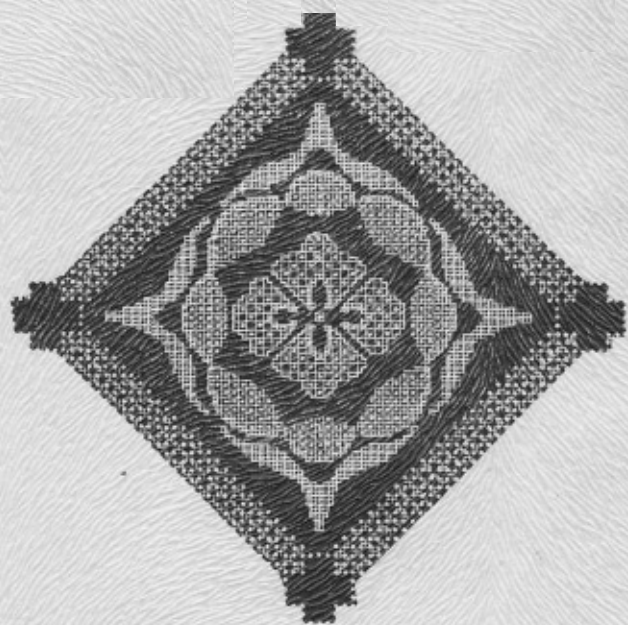


# 本場大島紬 製造ハンドブック



鹿児島県大島紬技術指導センター

本場大島紬  
製造ハンドブック

## 序 文

日本の代表的な絣織物の一つである本場大島紬は、その絣の精巧、ち密さで有名な、伝統工芸的織物であります。現在では伝統工芸的領域に止まらず、本県の一大産業にまで発展し、この盛衰は産業経済に大きな影響を及ぼす重要な産業であります。

この絣の加工法は我々の祖先、先輩方が苦勞に苦勞を重ね、永い年月をかけて造り上げた立派な工芸的文化遺産であり、私達紬にたずさわる者は、これを守り育て、さらに磨きをかけて子々孫々に残す責任と義務があります。

この加工法は、工程の殆んどが手作業であり、熟達するには永年の経験を要するものですが科学、情報の発達した現在においては伝統工芸品といえども経験と勘だけにたよるべきものでなく、その加工法について理論的に解析し、さらに研究改善しなければなりません。特に各工程が分業化、専門化されている本場大島紬においては、その従業者が各工程の内容についての知識をもたなければ技術の改善向上はあり得ません。近年、特に加工技術の進歩はめざましく、尚一層の理論的知識が要求されています。

このようなことから本場大島紬の加工技術を体系づけた教本が必要となり、本書を編さんすることになりました。

業界の皆様が手引書として利用されることを切望いたします。

昭和 57 年12月

鹿児島県大島紬技術指導センター 染 川 弘 光

# 目 次

序 文 .....	1
第 1 章 概 要 .....	11
1. 本場大島紬の名称 .....	11
2. 本場大島紬の歴史 .....	11
3. 本場大島紬の分類 .....	13
3-1 絣糸使用別分類 .....	13
3-2 染色別の分類 .....	13
3-3 糸の密度別分類 .....	14
3-4 絣糸の密度別分類 .....	14
3-5 地糸の配列別分類 .....	14
3-6 柄による分類 .....	14
4. ひすび .....	14
第 2 章 図 案 .....	17
1. 図案の目的 .....	17
2. 図案と絣糸配列 .....	17
2-1 カタス越式 .....	18
2-2 一モト越式 .....	18
2-3 一モトカタス越式 .....	18
2-4 二モト越式 .....	18
2-5 割込式 .....	19
3. 図案用方眼紙 .....	19
4. 一完全模様 .....	20
4-1 一完全模様の取り方 .....	20
4-2 品数の出し方 .....	21
5. 柄模様の種類 .....	21
5-1 立編模様 .....	22
5-2 飛模様 .....	22
5-3 一機締模様 .....	22

5-4	タフコ柄模様	22
5-5	市松柄模様	23
5-6	地空き柄模様	23
5-7	半地空き柄模様	23
5-8	横段模様	23
6.	柄の送り	24
6-1	タフコ	24
6-2	ユタフコ	25
6-3	ズレ曲げ	25
6-4	上下対称送り	25
6-5	上下送り	25
6-6	左右対称送り	26
6-7	左右送り	26
6-8	同心円送り	26
7.	柄模様の割付け	26
8.	箴と小間数	27
9.	色彩と配色	30
9-1	色	30
9-2	混色	31
9-3	配色	32
9-4	一般的な色の名称	33
10.	図案の調製	35
10-1	用具と材料	35
10-2	図案調製の仕方	35
11.	柄の基本形	36
12.	織物からの図案復元	44
13.	小柄の種類	45
第3章	原料糸と糊剤	48
1.	織物用繊維	48
1-1	繊維の分類	49
1-2	絹の構造と性質	52
1-2-1	物理的性質	53

1-2-1-1	繊維の太さ及び長さ	53
1-2-1-2	強力と伸度	54
1-2-1-3	色と光沢	54
1-2-1-4	絹鳴りと手触り	54
1-2-1-5	起電性	54
1-2-1-6	吸湿性	54
1-2-2	化学的性質	55
1-2-2-1	酸に対する性質	55
1-2-2-2	アルカリに対する性質	55
1-2-2-3	塩類に対する性質	55
1-2-2-4	酸化剤、還元剤に対する性質	55
1-3	絹の製糸	56
1-3-1	生繭の殺蛹	56
1-3-2	繭の乾燥	56
1-3-3	繭の合併	57
1-3-4	繭の選別	57
1-3-5	煮繭	57
1-3-6	繰糸	58
1-3-7	揚返し	58
1-3-8	束装	58
1-4	絹の燃糸	59
1-4-1	ソーキング	59
1-4-2	繰返し	60
1-4-3	引揃え	60
1-4-4	加燃	60
1-4-5	燃止め	60
1-4-6	揚返し	61
1-5	絹の精練	61
1-5-1	せっけん精練法	61
1-5-2	ソーダ精練法	62
1-5-3	せっけん・ソーダ精練法	62
1-5-4	酵素精練法	62

2. 原料用絹糸	63
2-1 絹燃糸の種類	63
2-1-1 燃糸法による分類	63
2-1-2 用途による分類	64
2-1-3 繭による分類	64
2-2 織 度	65
2-3 糸の目付	66
2-4 糸の選定	67
3. 織縮用ガス綿糸	68
3-1 木 綿	68
3-2 綿紡績	68
3-3 木綿のマーセル化(精練)	68
3-4 綿糸の種類	69
3-4-1 単糸、諸糸、強燃糸	69
3-4-2 ガス綿糸	69
3-4-3 カタン糸	70
3-5 綿糸の番手	70
4. 糊 剤	71
4-1 澱粉類	71
4-2 天然ゴム類	72
4-3 海藻類	72
4-4 メチル纖維素	72
4-5 ヒドロキシエチル纖維素	73
4-6 カルボキシメチル纖維素	73
4-7 ポリビニルアルコール	73
4-8 ポリアクリル酸エステル	73
第4章 準備加工	74
1. 糸量の計算	74
1-1 経糸の計算	74
1-2 緯糸の計算	74
1-3 ガス綿糸の計算	75

2. 地糸の加工 .....	75
2-1 経地糸 .....	75
2-2 緯地糸 .....	75
3. 絣縮めの準備作業 .....	76
3-1 糸繰り .....	76
3-2 整経 .....	76
3-3 糊張り .....	78
3-4 墨付け .....	78
4. 絣織縮め .....	79
4-1 絣織縮めの種類 .....	79
4-1-1 普通縮め .....	80
4-1-2 回し縮め .....	81
4-1-3 ふかし縮め .....	81
4-1-4 袋縮め .....	82
4-1-5 交代縮め .....	82
4-1-6 帯縮め .....	83
4-2 逆縮めとぬぎきり縮め .....	83
4-2-1 逆縮め .....	83
4-2-2 ぬぎきり縮め .....	83
4-3 ガス綿糸の引込み .....	84
第5章 染色加工 .....	86
1. 基礎知識 .....	86
1-1 水 .....	86
1-2 酸、塩基、塩 .....	88
1-3 酸化、還元 .....	89
1-3-1 酸化 .....	90
1-3-2 還元 .....	91
2. 染料 .....	93
2-1 天然染料 .....	93
2-1-1 植物染料 .....	93
2-1-2 その他の染料 .....	96



2-2	合成染料	96
2-2-1	染料の分類	96
2-2-1-1	直接染料	96
2-2-1-2	酸性染料	97
2-2-1-3	金属錯塩染料(含金属染料)	97
2-2-1-4	塩基性染料	97
2-2-1-5	酸性媒染染料	97
2-2-1-6	媒染染料	98
2-2-1-7	硫化染料	98
2-2-1-8	建染染料	98
2-2-1-9	可溶性建染染料	99
2-2-1-10	反応性染料	99
2-2-1-11	分散染料	99
2-2-1-12	その他の染料	99
2-2-2	染料の名称	100
3.	染色加工用剤	121
3-1	助剤	121
3-1-1	染料溶解剤	121
3-1-2	促染剤	121
3-1-3	緩染剤	122
3-1-4	助剤としての界面活性剤	122
3-2	媒染剤	123
3-2-1	無機媒染剤	123
3-2-2	有機媒染剤	124
3-3	固着剤	125
3-4	酸化剤	125
3-4-1	過酸化物	125
3-4-2	塩素化合物	126
3-5	還元剤	127
3-6	界面活性剤	128
3-6-1	アニオン界面活性剤	129
3-6-2	カチオン界面活性剤	130

3-6-3	両性イオン界面活性剤	131
3-6-4	非イオン界面活性剤	132
4	染色の種類	132
4-1	浸染	132
4-2	捺染	135
5	色合わせ	136
5-1	原色と二次色、三次色	136
5-2	補色と色消し	136
5-3	染料の混合	137
5-4	光源と色の対比	137
5-5	染料の計算	138
5-6	色合わせの注意事項	138
6	大島紬の染色法	139
6-1	シャリンバイ染色(シャリンバイ泥染色)	139
6-1-1	シャリンバイ煎出法	140
6-1-2	紺延染色	140
6-1-3	地糸染色	141
6-1-4	洗浄	142
6-1-5	重量増加	142
6-2	藍染色	142
6-2-1	藍建法	143
6-2-2	染色方法	144
6-3	植物染料染色	144
6-3-1	煎出方法	144
6-3-2	染色方法	144
6-4	合成染料染色	145
6-4-1	紺染色	145
6-4-2	地糸染色	146
6-5	紺の抜染	146
6-5-1	色紺抜染法(地色部分を抜染する法)	146
6-5-2	紺部分の一部抜染法	146
6-5-3	泥藍紺の部分抜染法	146

7. 染色堅ろう度試験 .....	148
7-1 摩擦に対する染色堅ろう度試験方法 .....	148
7-2 熱湯に対する染色堅ろう度試験方法 .....	149
7-3 耐光堅ろう度試験方法 .....	150
7-4 汗に対する染色堅ろう度試験方法 .....	151
7-5 洗たくに対する染色堅ろう度試験方法 .....	152
第6章 仕上げ加工 .....	155
1. 絣糸の摺込み染色 .....	155
1-1 部分解き .....	155
1-2 摺込み液 .....	155
1-3 摺込み法 .....	156
1-4 蒸熟処理 .....	156
2. 番組み .....	156
2-1 総解き .....	156
2-2 番組み .....	156
3. 糊付け .....	157
4. 経絣糸の仕上げ .....	157
5. 経絣糸の板巻き .....	158
6. 経地糸の巻込み .....	159
7. 経絣糸と経地糸の配列 .....	159
第7章 製織 .....	161
1. 機掛け .....	162
1-1 綜統通し .....	162
1-2 箴通し .....	162
2. 緯糸の管巻き .....	163
3. 織り付け .....	163
4. 織機の調節 .....	164
4-1 綜統 .....	164
4-2 パタン .....	164
4-3 伸子 .....	164

5. 経糸の張力 .....	164
6. 緯糸の打ち込み .....	165
7. 拵調整 .....	165
8. 用 具 .....	166
あ と が き .....	169